

本願文 第4願 2023/12/19gotonote

願名 無有好醜の願

願文 設我得仏 国中人天 形色不同 有好醜者 不取正覚

梵本 もしも、世尊よ、かのわたくしの仏国土において、ただ世俗の言いならわしでの名称と表示をもって、<神々〔あるいは〕人間たちとである>と数えたてることは別として、神々と人間たちとの区別が知られるようであるならば、その間は、わたくしは無上なる正等覚をさとりません。

成就文 皆受自然虚無之身無極之体。(P39)

<語注>

「形色」 顕色すなわち色彩に体して、形色は長短・方円などの形態をいう。前の第3願は顕色であり、この第4願は形色の願といえる。『呉訳』では第9願に「悉く同じく一色に」とあるのに続いて「都て一類なること皆第六天人のごとく」とあり、『漢訳』『宋訳』『梵本』も、人間と天人との差異区別のないことを願っているのである。本経では形色とあり、『唐訳』では形貌とありその好醜の差別のないことが願われているのである。(松原 P171)

「好醜」 好は(みめよい)、醜は醜悪(みにくい)で、容貌に美醜の差別のないことが願われているのである。(松原 P171)

<視点>

・「無有好醜」ということは決してみんなを美しくしようということではない。「美」と言っているものは全部、醜に対する美。善悪、浄穢、美醜、全部これは二元論(分別)。醜でない美という、美を選んで醜を捨てると、そういう美が本当に美なのか。そういう醜に対する美というようなものは、やはり醜に縛られた美でございますね。何を美、何を醜と見るかは、時代、民族、国によって変わる。個人の主観にとどまり、普遍的な美とはいえない。(取意)(宮城大経 20P98)

・形相功德成就

「夫忍辱得端正、我心影響也。」(大集経言)「(浄土はひとたび)得生彼無瞋忍殊。」

一生齒を食いしばって耐えた人と、わがままいっぱい生きて人と、異なりがないというのは不公平でないかと、ちょっとそう思うのですけれども。じつはそういう不公平だと思う心というのが、つまり、自分が耐えてきたその苦しみに対する執着ですね。その執着が、おれはこれだけ耐えてきたのだからと、そこにその徳が与えられることを当然とする。

逆に自分の耐えてきた苦悩に対する執着があれば、それはかえってその姿形を濁らせるのでしょ。 (宮城大経 20P98)

・「遠離分別」

世尊、我得菩提成正覚已、十方世界所有衆生令生我刹、如諸仏土人天之衆、遠離分別諸根寂静、悉皆令阿耨多羅三藐三菩提。(『莊嚴経』第2願 真聖全 1P219)